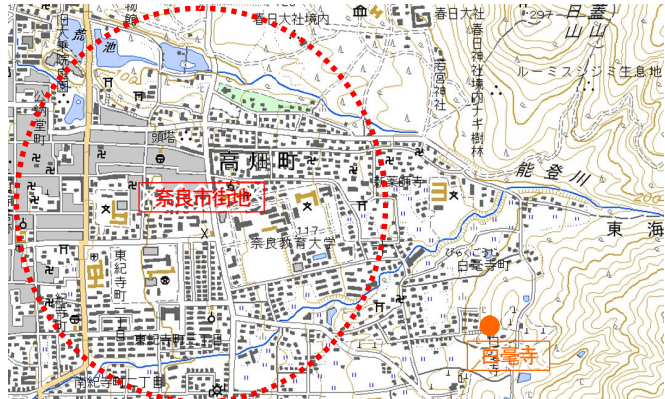
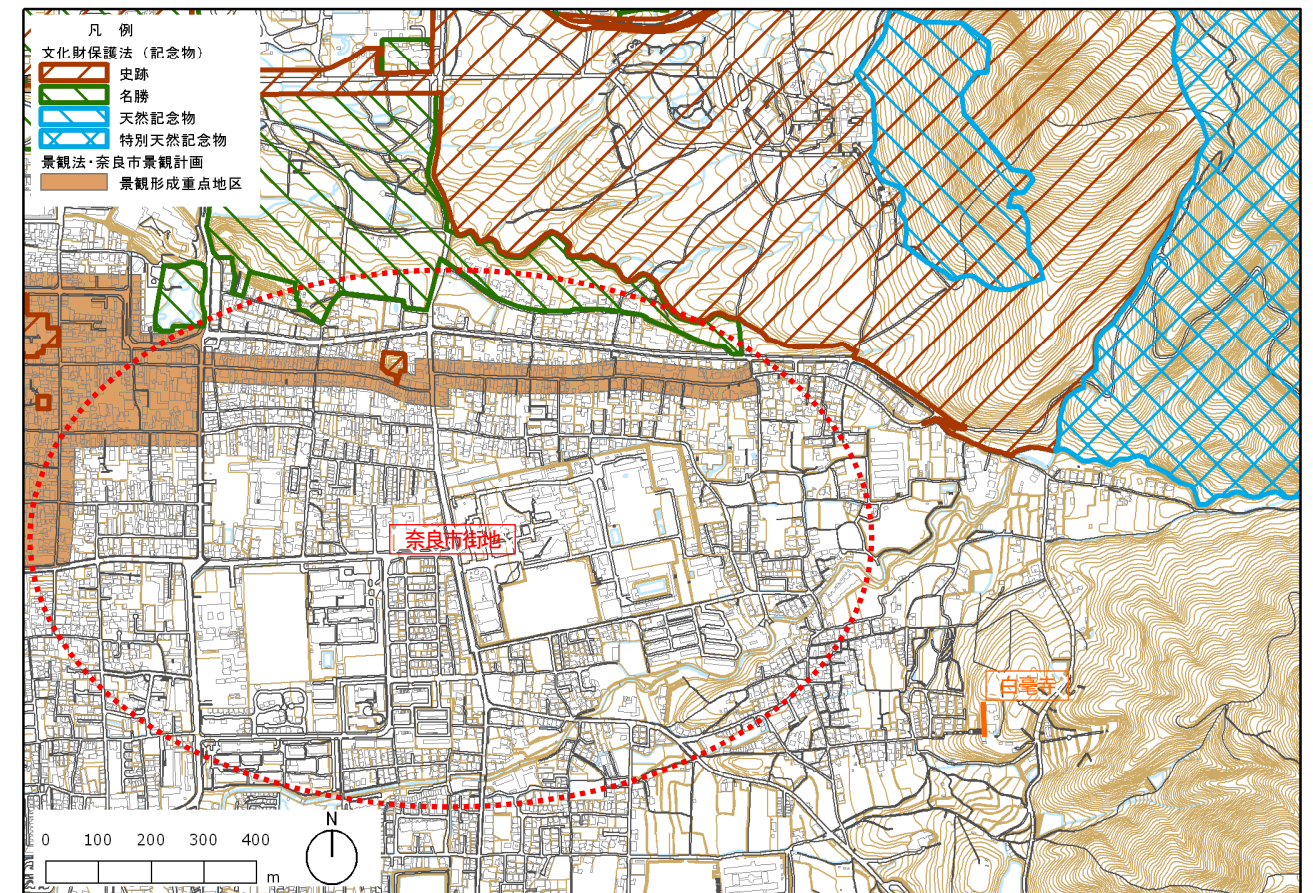
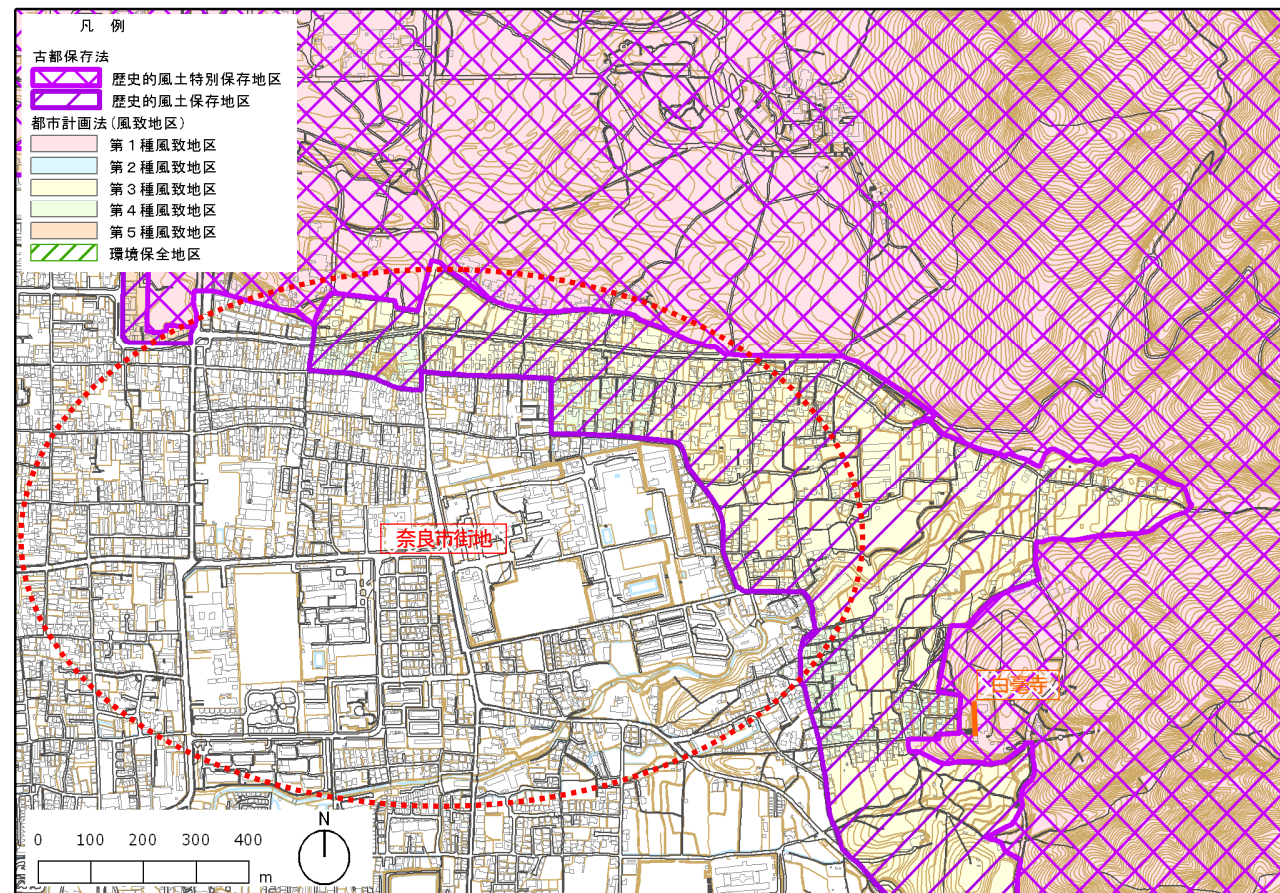
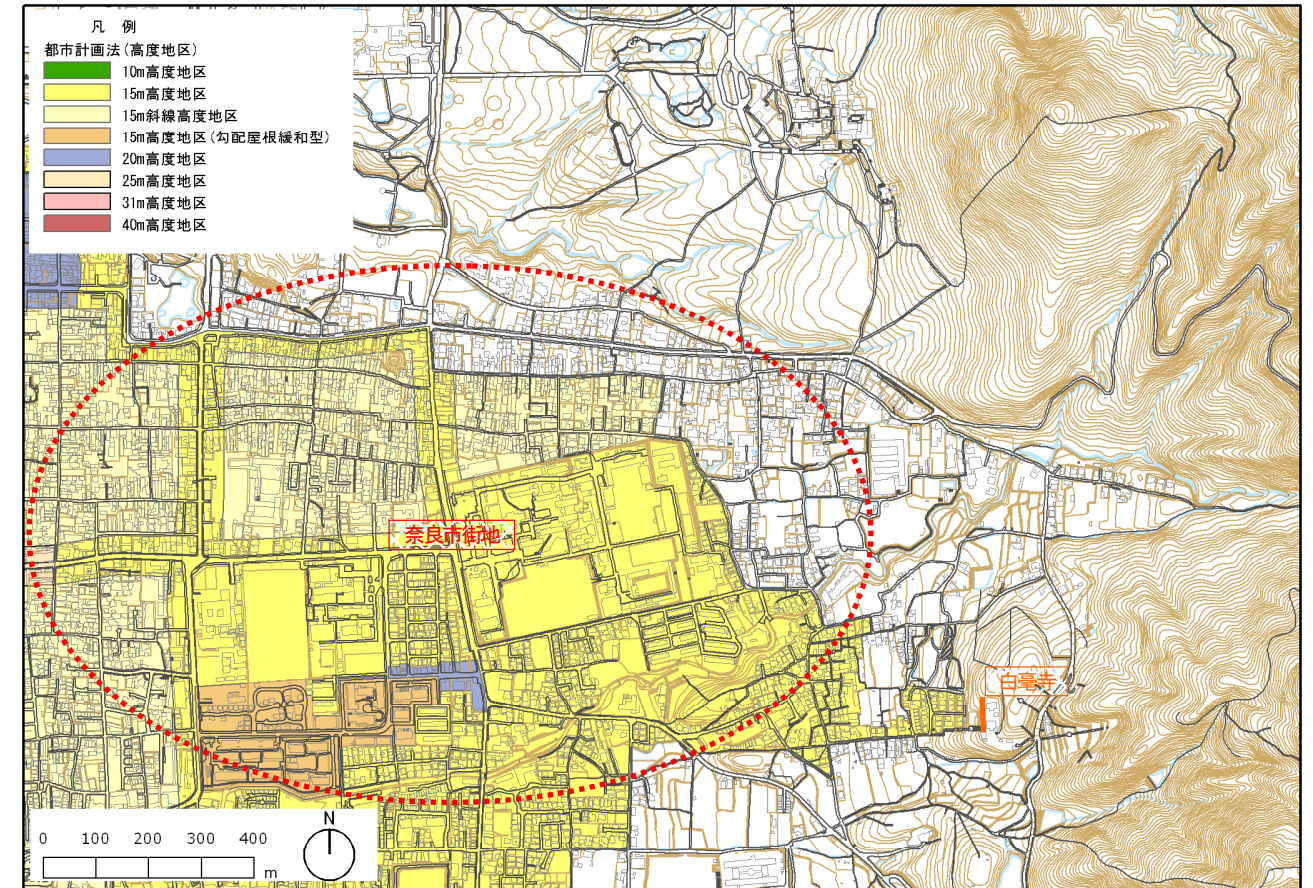
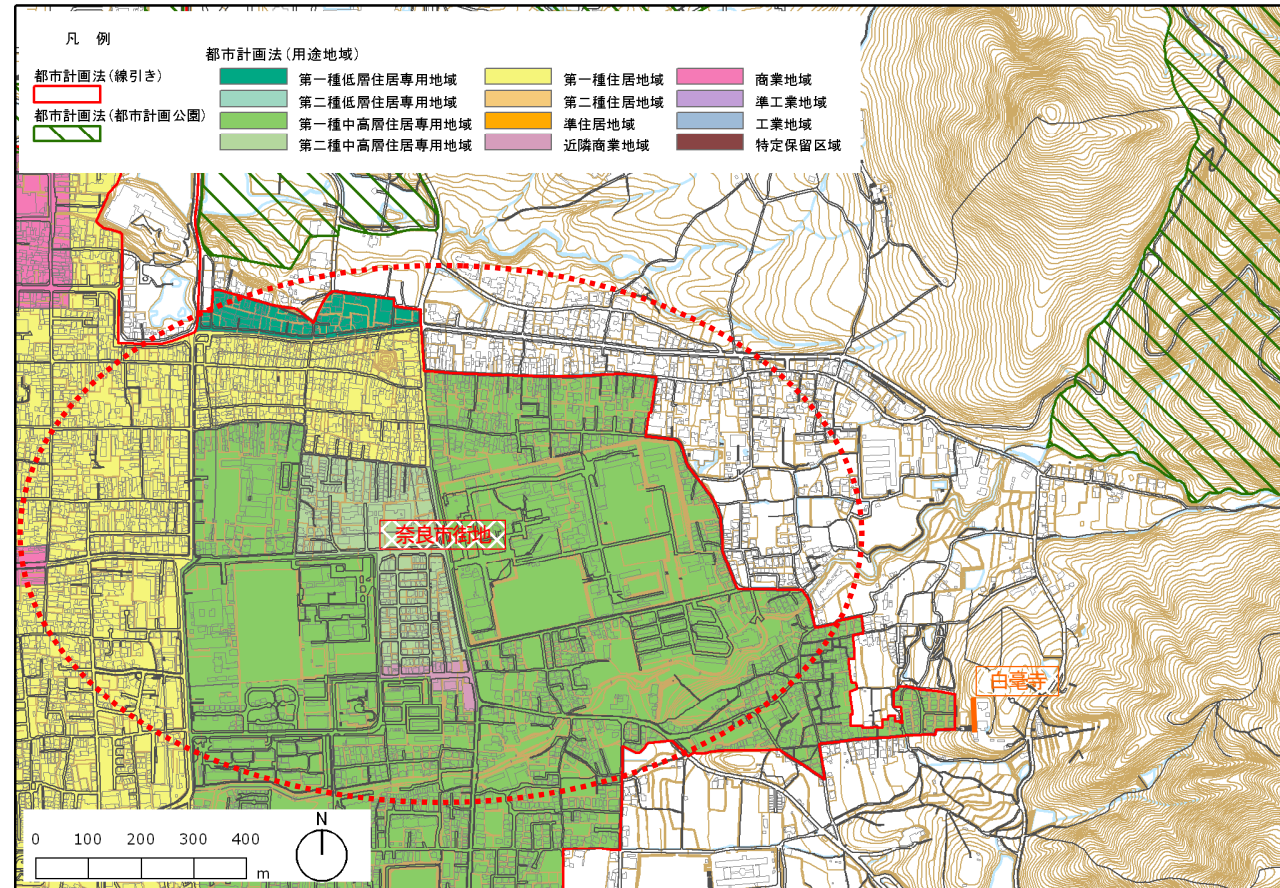
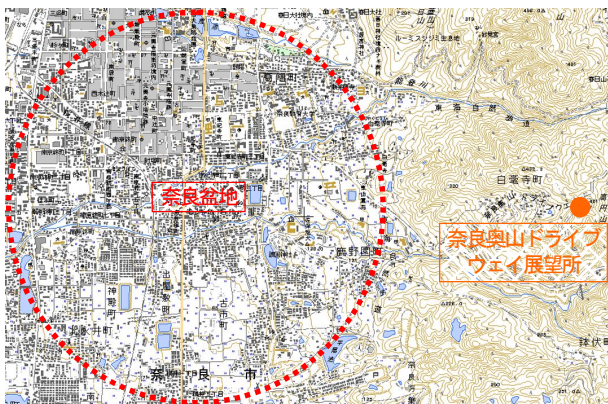


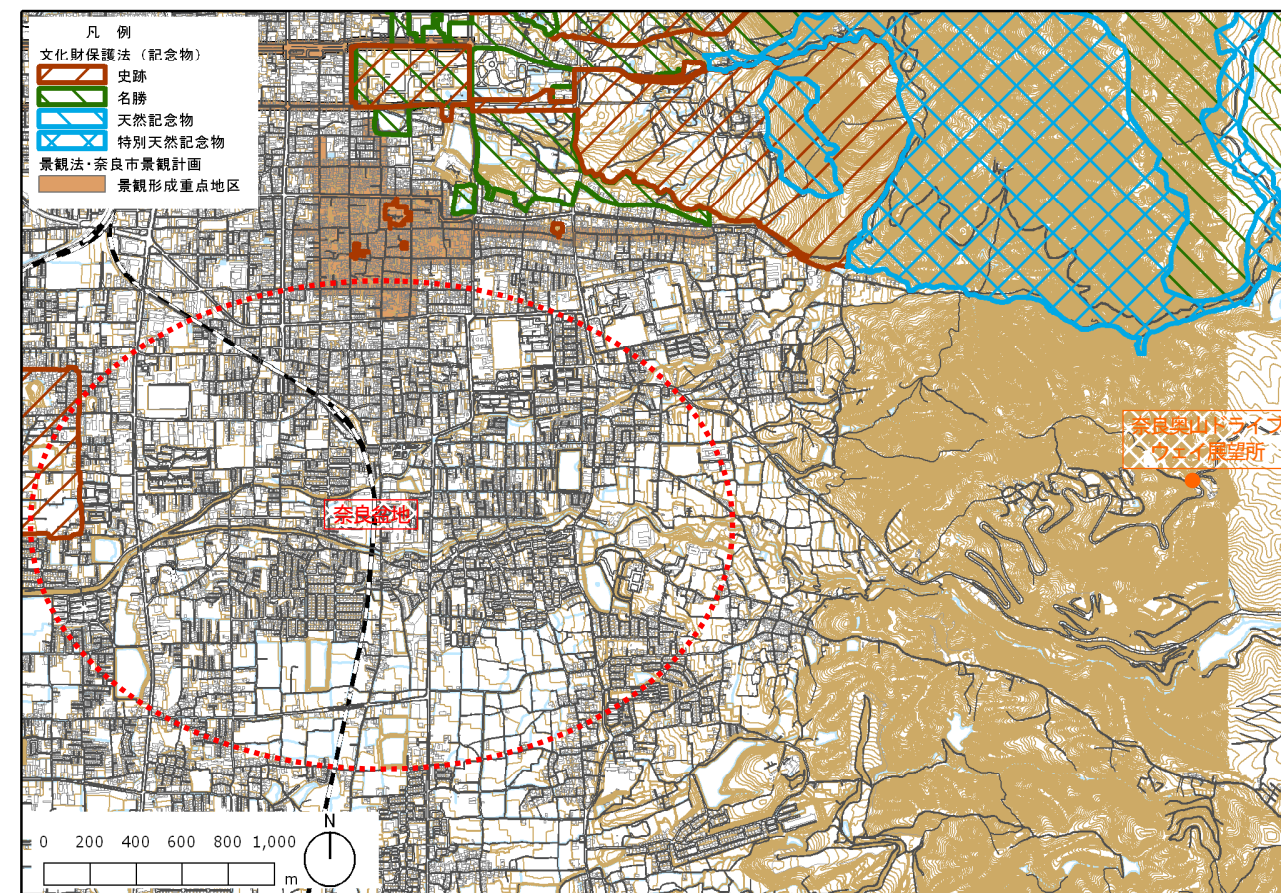
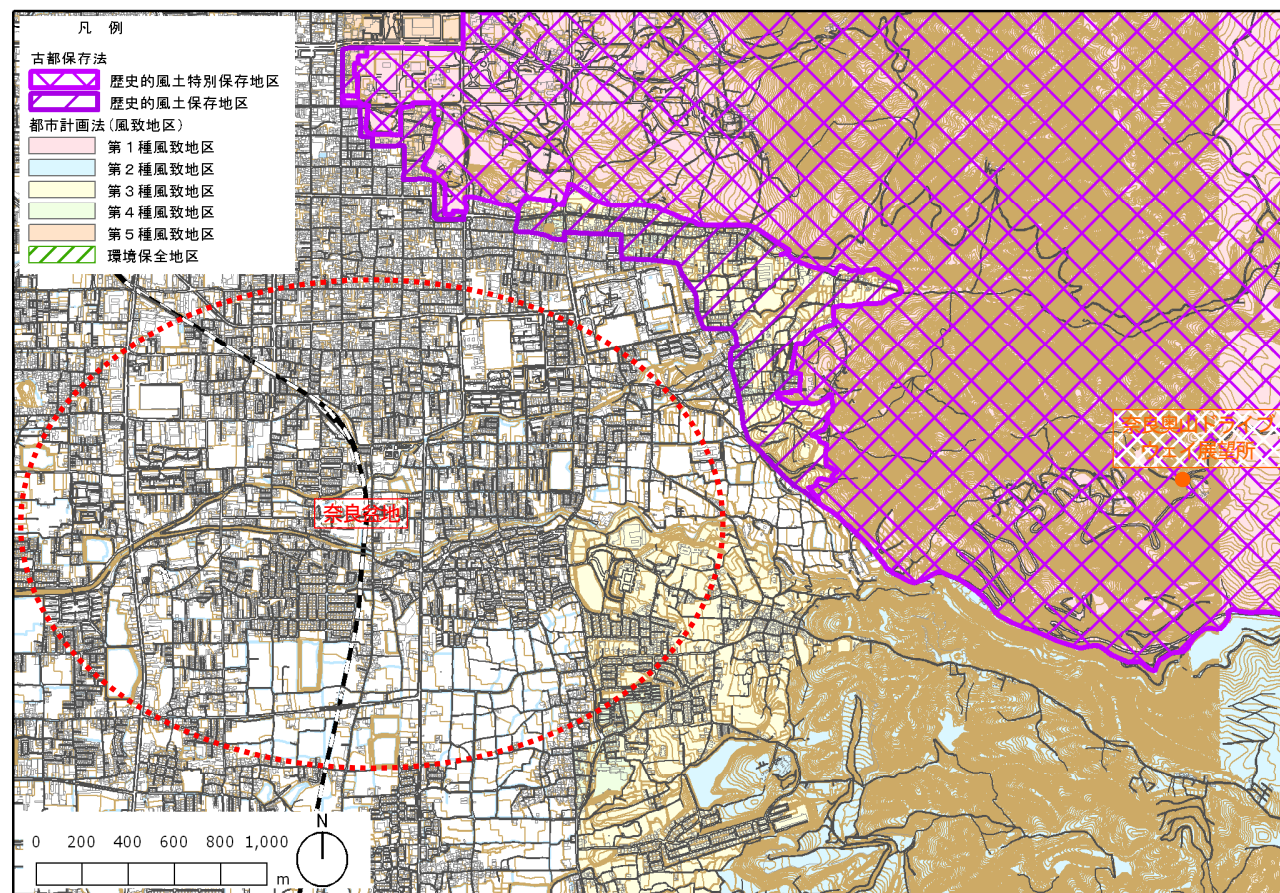
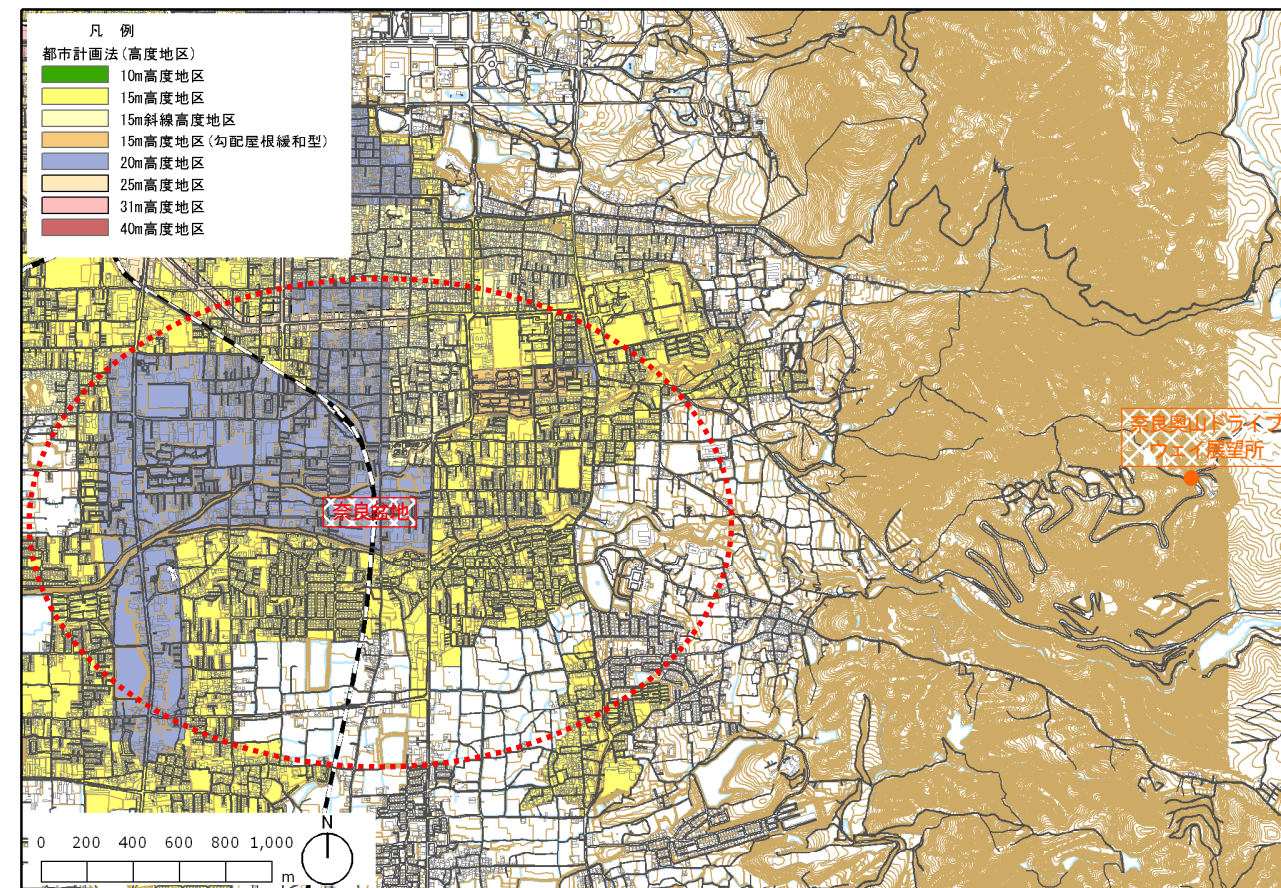
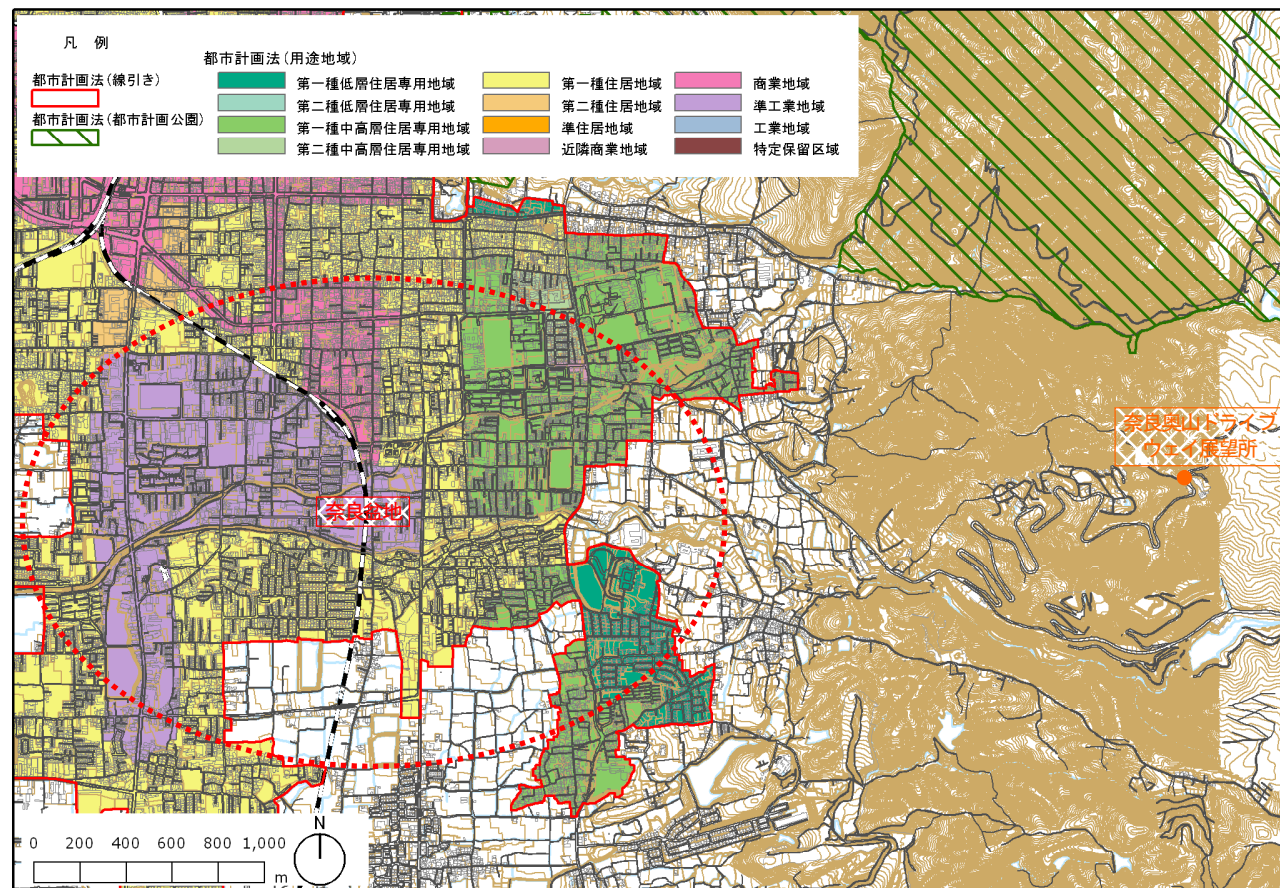
No. 7 白毫寺から奈良市街地への眺望			類	型	I：見下ろし型眺望景観	
 			視	点	場	白毫寺境内
			視	対	象	奈良市街地
			眺 望 空 間	近	景	樹林、門、石段、萩
				中	景	奈良市街地
	遠	景	奈良市街地、生駒山系の山並み			
目に見える景観の特性			高円山の山麓の白毫寺境内を視点場とし、近景には山林、中景には奈良市街地、遠景には生駒山系の山並みを望むパノラマ景である。奈良盆地の広がり一望でき、北方には興福寺五重塔も望める。 夏には白毫寺へと登る石段の脇に萩の花が咲き、石段や山門と一体となり、近景をより美しく彩る。			
心で感じる景観の特性	歴史的背景	白毫寺 霊亀元年（715）、天智天皇の第7皇子である志貴皇子の没後、天皇の勅願によって皇子の山荘跡を寺としたのに始まると伝えられる。鎌倉時代に再興された。特に道照が中国から宋版一切経の摺本を持ち帰ってからは一切経寺とも呼ばれ、庶民信仰の場として栄えた。また、かつてこの高円山付近に存在した石淵寺の一院であったともいわれる。室町時代に兵火で建物が焼失し衰退するが、江戸時代の寛永頃に興福寺の空慶により復興されている。				
	民俗文化・生活文化 文学・芸術作品 説話・伝承	白毫寺 白毫寺付近には聖武天皇の離宮もあったとされているが、場所は不明である。 また、白毫寺の位置する高円山は、万葉集に多くの歌が残されている。 「高円の 野辺の秋萩いたづらに 咲きか散るらむ 見る人なしに」（万葉集 2-231、笠金村歌集） 「高円の 野の上の宮は 荒れにけり 立たしし君の 御代遠そけば」（万葉集 20-4506、大伴家持）				
	眺望景観の構成要素の 関 係	白毫寺と奈良市街地 天智天皇の第7皇子志貴皇子の山荘跡といわれ、また、一切経寺として庶民信仰の場として栄えたように、平城京や奈良の町と関係の深い寺院である。 白毫寺と興福寺 白毫寺境内の五色椿（奈良県指定天然記念物）は、寛永年間（1624～1645）に興福寺の塔頭、喜多院から移植したものとされる。		 白毫寺本堂と五色椿		
情報としての景観の特性	名所案内記 絵 図 等	白毫寺 白毫寺は「大和名所図会巻ノ一」（寛政3年（1791））で紹介されている。				
	インベントリー	白毫寺 白毫寺境内の五色椿は、「奈良三名椿」の一つである。 奈良盆地 奈良盆地（大和平野）は、「疏水百選」に選定されている。				
			守 る た め の 視 点		視対象の前景の樹林は、歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区として、保存が図られている。しかし、市街地の区域は歴史的風土保存区域、第三種風致地区、第一種中高層住居専用地域、15m高度地区等であり、高さ 15mの建築物等が建てられることでの眺望が変容してしまうおそれがある。視対象の前景に、近隣の市街地が映り込む場合、屋根並みの形成など、形態・意匠等の規制・誘導が求められる。 （施策の方向性）A-1、A-3	
			整 え る た め の 視 点		眺望景観を阻害しているものはみられないため、特段の再生施策は求められない。 （施策の方向性）—	
			活 か す た め の 視 点		公募により推薦された眺望景観であり、萩や五色椿でも有名である。また、白毫寺においても奈良盆地を一望できる寺としての情報発信に努めており、多くの人に知られているといえる。また、ベンチの設置など、白毫寺により既に視点場として整備されており、新たな視点場整備は求められない。 （施策の方向性）—	

法的 位置 付け



No. 8 奈良奥山ドライブウェイ展望所から奈良盆地への眺望			類	型	I：見下ろし型眺望景観	
 			視	点	場	奈良奥山ドライブウェイ展望所
			視	対	象	奈良盆地
			眺 望 空 間	近	景	山林
				中	景	大和平野（奈良市街地、農地）
遠	景	奈良市街地、生駒山系の山並み				
目に見える景観の特性			近景に山林、中景に奈良盆地の市街地や農地の広がり、遠景に生駒山系の山並みを望む雄大なパノラマ景である。			
心で感じる 景観の特性	歴史的背景	奈良奥山ドライブウェイ 1955年10月22日に供用開始された一般自動車道。若草山側は新若草山自動車道、高円山側は高円山ドライブウェイとも呼ばれ、かつては万葉ドライブウェイとも呼ばれていた。 奈良盆地 大和平野地域は、全国的にも寡雨地帯の一つで、昔から「大和豊年米食わず」と言われてきた。かつては平野一円に分布する数千個のため池により用水を確保してきたが、現在は吉野川分水により用水確保が可能となっている。				
	民俗文化・生活文化 文学・芸術作品 説話・伝承	奈良盆地 奈良盆地（大和平野）のなかには大きな河川がみられず、輸送の不便さや常に水不足であった平城京を想起できる。				
	眺望景観の 構成要素の 関 係	奈良盆地と周囲の山並み 奈良盆地を取り囲む山林・山並みと、盆地の広がりを一望でき、奈良盆地の地形的特徴を感じることができる。				
情報としての 景観の特性	名所案内記 絵 図 等	—				
	インベントリー	奈良盆地 奈良盆地（大和平野）は、「疏水百選」に選定されている。				
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			
			—			

法的 位置 付け



No. 9 奈良町から興福寺五重塔への眺望			類	型	Ⅲ：見通し型眺望景観	
  			視	点	場	奈良町
			視	対	象	興福寺五重塔
			眺 望 空 間	近	景	奈良町の町並み
				中	景	興福寺五重塔
				遠	景	(空)
目に見える景観の特性		奈良町の歴史的な町並みが興福寺五重塔への軸線をつくりだし、アイストップとなる興福寺五重塔の象徴的に望むことができる。 都市計画道路杉ヶ町高畑線（高畑町御所馬場町区間）では、春には桜越しに興福寺五重塔を望むことができる。				
心で感じる景観の特性	歴史的背景	奈良町 平安時代以降、東大寺、興福寺等の周囲に形成された門前郷を原形として発展してきた町である。 興福寺五重塔 興福寺は、山科の地に藤原鎌足の死後に建てられた山階寺にはじまるといい、藤原氏の氏寺であった。後に飛鳥に移され厩坂寺となり、平城遷都とともにいち早く新京に移された。平安時代には、寺地内に多くの子院がつくられ、勢力を拡大した。その後、何度も火災にあうが、その都度再建されてきた。五重塔は、天平2年（730）に興福寺の創建者藤原不比等の娘光明皇后が建立した。その後5回の被災・再建を経ており、現在の塔は、応永33年（1426）頃のものである。				
	民俗文化・生活文化 文学・芸術作品 説話・伝承	奈良町 中世以降、墨・筆・蚊帳・晒などの様々な産業が発展し、近世には有力な商工業都市として成熟した。現在もそれらの産業が残されている。墨の香りや寺院からの線香の香りから、生活文化を感じられる。 また、奈良町には「博奕をうった神様」や「阿字万字の天狗」などの数多くの説話や伝承が残されている。  鶴福院町からの興福寺五重塔の眺め 昭和26年（1951年）9月 （入江泰吉「古都の暮らし・人―昭和20年から昭和30年代」より）				
	眺望景観の構成要素の関係	興福寺と奈良町 奈良町は、平城京の条坊を下敷きとしつつ、興福寺の門前郷として形成された。興福寺の鐘の音が聞こえ、興福寺との関係のもとに発展・成熟してきた奈良町の歴史を感じられる。				
情報としての景観の特性	名所案内記 絵 図 等	興福寺 「大和国細見図」（享保20年（1735））、「大和名所図会巻ノニ」（寛政3年（1791））、「いんばんや絵図」（明治3～15年（1870～1882））、「奈良名所細見図」（明治24年（1891））など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。				
	インベントリー	奈良町 奈良町地区は「都市景観100選」（平成8年度）、ならの墨づくりは「かおり風景100選」（平成13年）に選定されている。 興福寺 世界遺産として多くの人々に知られており、南都七大寺のひとつでもある。また、奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、興福寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられている。				
			守 る た め の 視 点		興福寺五重塔は、国宝に指定され、保護されている。また、奈良町は、奈良町都市景観形成地区及び奈良町歴史的景観形成重点地区として、視点場及び近景の町並みの保全・形成が図られている。しかし、周囲に不調和な建築物等もみられ、基準の再検討や運用の改善等が求められる。また、現行法制度による制限では、眺望景観を阻害する建築物等が映り込むおそれがある区域もみられるため、建築物等の高さ、形態意匠等の制限の追加が求められる。 興福寺旧境内より北側の市街地は、比高が低く、現行の高さ制限によって十分に背景の保全が図られているため、新たな規制は求められない。 都市計画道路杉ヶ町高畑線沿道の角地（現在空地となっている敷地）の利用方法によっては、眺望景観が阻害されるおそれがあるため、眺望景観の保全のための調整・検討が求められる。 （施策の方向性）A-1, A-3	
			整 え る た め の 視 点		一部区間で電線類の地中化が実施されたが、電線類を地中化していない区域では、視界に電線類が映り込む。電線類の美装化の推進等が求められる。 一部奈良町の町並みに不調和な建築物等や、建物の屋上にある高架水槽、塔屋が視界に映り込み、眺望景観の質を低下させているため、修景が求められる。 （施策の方向性）F-3, H-1	
			活 か す た め の 視 点		奈良町から興福寺五重塔が見えることは多くの人が知っており、鶴福院町で電線類を地中化したことでも注目される眺望景観であり、多くの人に知られているといえる。多くの人が眺望景観をより深く味わうことができるよう、奈良町と興福寺の関係など、眺望景観の価値を分かり易く情報発信していくことが求められる。また、まちなかからの眺望であり、立ち止まってゆっくりと眺望景観を享受できる場の整備が求められる。 （施策の方向性）J-1, K-1	

法的位置付け

